

《履修上の留意事項》・本科目の単位を修得していない者は3年次開講の心理演習を履修することができない。
 ・オムニバス形式で毎回異なるテーマが行われるため、全ての回に出席することが必要である。また、実際に演習形式での学習も実施される。各回、レポート課題が課されるが、レポートは期限内に提出することが求められる。

《担当者名》 本谷 亮(motoyan@hoku-iryo-u.ac.jp) 野田 昌道 金澤 潤一郎 今井 常晶 関口 真有 金山 裕望 百々 尚美

【概要】

心理的アセスメントは、クライアントの現状を評価・診断するために必要な心理社会的情報収集に加えて、心理学的支援・治療計画の立案、その具体的方法の検討と効果の判定に有用な情報収集を行うプロセスである。

本講義では、心理的アセスメントの主要な方法である心理検査法や観察法を中心に、その特徴と具体例を学び、3年次後期に開講される心理演習に必要な基本的知識の修得を目指す。

【学修目標】

心理的アセスメントの定義、目的、主要な方法、倫理について理解する。

心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法について理解する。

心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を理解する。

主な心理検査（性格検査、知能検査、発達検査、神経心理学的検査）の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について理解する。

心理検査の適応及び実施方法について理解し、正しく実施方法と検査結果の解釈について理解する。

観察法の種類と特徴を理解する。

不安・うつ等の症状をアセスメントする主な検査について、種類、特徴について理解する。

生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させた包括的な解釈について理解する。

心理的アセスメントにおける留意点や配慮、適切な記録の仕方、報告、振り返りについて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	心理的アセスメント概論	心理的アセスメントの定義、目的、主要な方法（種類、意義、限界）、倫理について学習する。また、心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法、関与しながらの観察の意味と内容、について学ぶ。	本谷 亮
3・4	性格検査 1	投影法であるP-Fスタディについて、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	関口 真有
5・6	性格検査 2	投射法の構造、特徴、役割について学ぶ。 投射法のSCT（文章完成法）について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	野田 昌道
7・8	性格検査 3	質問紙法であるY-G性格検査について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	関口 真有
9・10	性格検査 4	投射法として絵画物語法について学ぶ。絵画物語法の代表的な技法としてTATを取り上げ、その成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	野田 昌道
11・12	性格検査 5	描画法について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	野田 昌道
13・14	知能検査 1	田中ビネー式知能検査について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	今井 常晶
15・16	知能検査 2	ウェクスラー式知能検査について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	本谷 亮
17・18	発達検査	津守式乳幼児発達検査、遠城寺式発達検査、K式発達検査をはじめとする主な発達検査について、成り立ち、特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	今井 常晶
19・20	発達障害の検査	自閉スペクトラム症、ADHDの診断、症状評価、機能障	金澤 潤一郎

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		害を測定する主な検査について、成り立ち、特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	
21・22	神経心理学的検査	前頭葉簡易機能検査であるStroop test、Wisconsin Card Sorting Test、FABなどについて、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	関口 真有
23・24	観察法 1	観察法の種類、特徴、実施方法、結果の分析、解釈について学ぶ。	今井 常晶
25・26	観察法 2	成人を対象とした行動観察データを収集し、結果の分析、解釈を学ぶ。	金山 裕望 百々 尚美
27	性格検査 6	作業検査法である内田クレペリン検査について、成り立ち、主な特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	金山 裕望
28	症状のアセスメント	不安・うつをアセスメントする主な検査について、成り立ち、種類、特徴、実施方法、結果の分析、解釈を学ぶ。	金山 裕望
29・30	臨床現場での実践	本講義の総括として、心理的アセスメントが臨床現場で実際にどのように行われているかについて、実施時の留意点や配慮、適切な記録の仕方、報告、振り返りの観点から学ぶ。また、テストバッテリー、結果の統合と包括的解釈についても学習する。	本谷 亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末試験（80％）

レポート（20％）

・全ての回に出席することを前提とする。公欠席に該当し、やむを得ず欠席した場合には、代替課題を行うため、担当回の教員に必ず連絡をとること。

・各回、課されるレポート課題を期限内に提出すること。

【教科書】

適宜プリントを配布する

【参考書】

上里一郎（編） 「心理アセスメントハンドブック」（西村書店）

【学修の準備】

予習：各心理検査の概要について調べ、理解を深める（4時間）。

復習：講義資料や参考書をもとに各心理検査の特徴を復習する。また、補足資料がある場合には、次講義までに精読する（4時間）。

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

心理的アセスメントに関する専門的知識や実施時の基本的配慮を修得できる。これにより、「心の問題に関わる職業人として必要な幅広い専門的知識を修得」することができる（DP1）。また、実際の検査用具を見る、触れる、あるいは手順を行うことを通して、真理的アセスメントに関する基本スキルの修得ができることから、「社会の様々な分野において、心の問題を評価しそれを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得」することができる（DP3）。

【ICTの活用】

学習教材（授業資料）の配信や学習課題の提示においては、GlexaやGoogle Classroomを利用する。詳細は、各担当教員からの指示に従うこと。

【実務経験】

公認心理師：本谷 亮、野田 昌道、金澤 潤一郎、今井 常晶、関口 真有、金山 裕望、百々尚美

【実務経験を活かした教育内容】

各々が持つ現場での臨床経験を反映させた演習を行う。